



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 高橋 仁

仙台市青葉区国分町一丁目8-13
(仙台協立第1ビル 4階)

電話 022-224-2581

FAX 022-302-3406

第3回「平和祈念七夕プロジェクト」

青年部活動「平和祈念七夕プロジェクト」。今年は、東北大学と協働で実施しました。東北大学グローバルラーニングセンターの短期プログラム参加留学生、正規・交換留学生、日本人学生、仙台育英学園高、宮城県多賀城高、東北生活文化大附属高の高校生、青年部。総勢250名の大プロジェクトになりました。

活動期間は、6月下旬から8月の七夕当日までの一ヵ月半。

留学生対象に、(株)マルイチ壹岐社長様が、仙台七夕の歴史、飾りの意味などを講義。仙台ユネスコ協会は、民間ユネスコ運動の歴史や意義を講義しました。日本文化体験として留学生はパーツ作りに参加、7月の毎週土曜日に高校生や青年部が飾りに仕立て、くす玉と吹き流しが完成しました。

飾りは仙台駅東口に掲出、通行人に呼びかけた短冊の他、講義で書いた自分の短冊を見つけて喜ぶ留学生の姿がありました。

本プロジェクトは、「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」の一環であり、当協会としては、国際的な相互理解、平和の希求に寄与する事業と捉えています。

(青年部担当/副会長 内藤恵子 記)



制作指導の半澤さんを囲んで

第7回 みやぎユネスコ子どもキャンプ

8月13日～14日、一泊二日(スタッフは前日から二泊三日)で行われた子どもキャンプ。今年は、20名の児童生徒、22名の学生・青年部社会人スタッフ+大会会員の、総勢60名が参加しました。

昨年11月から企画を開始、ミーティングを重ね、テーマを設定し、学生スタッフを募集…。学業の合間を縫って、オーエンス自然ふれあい館の研修に参加したり、奈良ユネスコ協会青年部が主催する子どもキャンプに参加してみたり、着々と準備を重ねてきました。

コロナ禍の4年間のブランクを経て再開したこのキャンプには、自分が小・中学生の時に参加した「みやぎユネスコ子どもキャンプ」に、今度はスタッフとして参加したという学生たちがいます。当時学生としてキャンプを企画した青年部は、社会人青年部として学生スタッフを支えました。世代を超えて青年部の思いが伝わっていく、そんな素敵ながりが、このキャンプから生まれています。さらに、奈良ユネスコ協会青年部や関東圏の大学、お隣の富谷ユネスコ協会の青年部・ジュニア部の参加もあり、青年たちの思いは広がりを見せています。

(青年部担当/副会長 内藤恵子 記)



朝の体操で体を目覚めさせます

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年(昭和22年)7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

「民間ユネスコ運動の日」 記念講演会 開催

「民間ユネスコ運動の日」の記念行事を7月6日（日）午後2時から「東北福祉大学仙台東口キャンパス」にて50名の参加のもと開催しました。

初めに青年部副代表・若生壱輝さんの先導で「ユネスコ会員要綱」を唱和し、その後全員で「ユネスコの歌」を斉唱しました。次いで、高橋会長の挨拶の後、仙台市教育委員会生涯学習課小幡課長より来賓挨拶をいただきました。続いて書き損じはがきにご協力いただきました3名の個人に感謝状贈呈を行いました。



仙台ユネスコ協会 高橋 仁会長



講師：JICA海外協力隊 福井勇貴氏

記念講演はJICA海外協力隊の福井勇貴氏より「ブータンから学んだ国際交流」と題して講演をしていただき、3年間柔道を通して人と人の繋がりや大切さ、何も知らない国での生活環境に慣れるのに大変だったと苦労話の中に若さのエネルギーを感じました。また、参加された方々からも海外協力隊のお話を聞く機会がなかったのととても充実し、他国の食の文化を知ることが出来て良かったとのご意見をいただきました。

最後に青年部から「平和祈念七夕プロジェクト」と「みやぎユネスコ子どもキャンプ」の報告がありました。今後も当協会として引き続き青年部の活動を応援していきたいと思います。

（企画・広報委員会委員長/副会長 松坂宏造 記）

「書きそんじハガキ・キャンペーン2025」

みんなのタンス遺産で世界へ教育を届けよう

不要になったハガキや切手、商品券などいわゆる“タンス遺産”を回収し、募金に変えて、「ユネスコ世界寺子屋運動」の活動に役立てています。



2025年ユネスコカレッジ事業報告



本土女川町と離島出島（いずしま）を結ぶ「出島大橋」を背に記念撮影



石巻市震災遺構門脇小学校 被災消防車が凄まじさを物語っている

10月10日（金）晴天の中、ユネスコカレッジを開催しました。

参加者41名を乗せたバスは、駅東口を定刻に出発。車中、見上前会長（現顧問）から潮風トレイルがカレッジのテーマになったいきさつを伺いました。

最初の見学地石巻博物館で学芸員の泉田様のお迎えを受け、北上川が育んだ過去から今に繋がる文化・経済の流れを学びました。門脇小学校震災遺構では、ハルバーシュタット館長直々に、1階が津波、2・3階が火災に遭ったが、背後の日和山に避難し一人の死者も出さなかったと伺いました。避難経路や火災に遭った教室、映像で見る被災状況は、語り継ぐ大切さを訴えかけていました。

女川ではまちなかセンターで名物のまぐろ丼に舌鼓

をうち、海産物の買物を楽しんだ後、教育委員会次長兼係長の中嶋様と職員の佐々木様が同行し、出島大橋の説明を聞きました。配石遺跡群では、周囲の草木を刈り取る配慮をして待っていただきました。いつ、誰が、何の目的で巨石を運んだのか解明中ということでしたが、美しい海と遺跡群のコントラストが印象的でした。

復路の車中、中村元会長の締めめの挨拶で、平和の志を持ち、その思いを子孫に引き継げることがユネスコ会員である恩典である、という言葉いただきました。バスは予定時刻に東口に帰着、無事解散しました。企画実施にあたり、ご協力いただいた各方面の方々に感謝申し上げます。

（活動委員会委員長/副会長 佐藤芳郎 記）

ユネスコ会員企業紹介

～SDGsの取り組みについて～

鹿島建設(株)東北支店

当社は「全社一体となって、科学的合理主義と人道主義に基づく創造的な進歩と発展を図り、社業の発展を通じて社会に貢献する」という経営理念のもと、社会・環境問題に対応し、社会に必要とされ、持続的に成長できる企業グループを目指しています。

★当社の東北支店ビル建替（木造建築へ）

このたび1971年に竣工した東北支店ビル（仙台市青葉区二日町）を本格的な木造建築に建て替えます。新支店ビルは新開発の木造制震構造「欄間制震システム」（特許出願済）を初採用し、構造材の一部には当社グループが保有する「森林」（約5,500ha）からの産出材も使用します。既存社屋が担った災害拠点としての機能も引き継ぎ、地域の安全安心なまちづくりに寄与すべく、2026年秋に着工、2028年度内の竣工を目指します。



★自動化施工システム（A⁴CSEL®）

秋田県東成瀬村で施工中の成瀬ダム堤体打設工事において、建設機械の自動運転を核とした自動化施工システム「A⁴CSEL®（クウッドアクセル）」を導入しました。



2020年度からダム堤体のCSG打設に適用しており、10数台の自動化建設機械が昼夜連続で施工を行いました。

★大阪・関西万博への出展

（CO₂を吸収するコンクリート）

直近の東北地方以外の取り組みとして、2025年10月まで開催されていた「2025年大阪・関西万博」において、当社は「グリーン万博・ジュニアSDGsキャンプ」のブロンズパートナーとして、CO₂排出量を70%削減した「CUCO®-SUICOMドーム」を建設・出展しました。CUCO-SUICOMは、コンクリートにCO₂を固定する技術「CO₂-SUICOM®」を基に、CO₂排出量のさらなる削減を可能にしたカーボンニュートラル/カーボンネガティブコンクリートで、当社がNEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）のグリーンイノベーション基金事業において共同開発した技術です。



【仮移転先】

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-4-19
アーバンネット仙台中央ビル16階(受付15階)
TEL022-261-7111 <https://www.kajima.co.jp/>

(株)東弘

弊社は昭和38年、当時週3回発行の全国紙「聖教新聞」の広告代理店としてスタートいたしました。聖教新聞は現在、国連のSDGメディア・コンパクトに加盟し、SDGsの推進・情報発信に取り組んでいます。紙面やWebサイトでSDGsをテーマにした漫画、有識者インタビュー、推進事例の紹介などを行い、読者のSDGsへの関心を高める活動を展開しています。また、事業活動においても、環境負荷低減のため、電気使用量の削減などの取り組みを進めています。

弊社は広告の分野で、「とうほくSDGs企画」を全国に先駆けて発案、毎年9月のSDGs月間で啓発を進めております。

現在の事業内容としては、マス4媒体（新聞・雑誌・テレビ・ラジオ）のほか、Web／デジタル、広告、プロモーション、ツール開発など多岐にわたる分野を扱い、従来の広告代理業務＋付随するデザイン・イベント・Web系の業務を融合させたサービスを提供しております。また、本社を軸に全国のネットワークを活かして、地方でも広告・プロモーションを手がけられる体制を持っています。

【社会貢献活動の取り組み】

◎新しい東北観光シンポジウムの開催に貢献◎

震災後の東北を「観光」で元気にとの思いで、仙台空港民営化の2016年からスタートした、「新しい東北観光シンポジウム」について10年間に渡り携わってまいりました。

毎年テーマを変え、国・県・市をはじめ東北の観光に携わる企業・団体など民間の皆様をお招きし、活発な語らいを進めてまいりました。

インバウンドをはじめ国内から東北への流れができつつある今、今後も東北観光の発展についてお役に立っていただくと考えております。



本社所在地

東京都千代田区平河町1-4-12 平河町センタービル2F

東北支社所在地

宮城県仙台市宮城野区榴岡4-5-22 宮城野センタービル502

事業領域：広告事業、プロモーション、イベント、Web制作・運用、デザインなど

支社・営業所：東北支社、北海道営業所、中部支社、北陸営業所、関西支社、神戸営業所、西日本支社、広島営業所、岡山営業所、四国営業所、松山事務所

第60回 国際理解教育弁論大会

第60回国際理解教育弁論大会が、令和6年9月2日、記録的な暑さとなった気温37度の中、宮城県富谷高等学校で開催されました。

本大会は、全国大会への出場者を決める宮城県予選も兼ねており、県内の高校から選ばれた15名が参加しました。大会の目的は、高校生が国際理解を深め、国際協調の精神を養い、相互理解を促進することにあります。

参加者は、自らの考えを弁論として堂々と発表しました。準備の過程では、先生に相談したり、直前まで練習を重ねたりする姿が印象的で、本番では全員が熱い想いを語りました。

第1位となる宮城県知事賞には、尚絅学院高等学校3年の太宰悠さんが選ばれました。演題は「笑顔の奥にあるもの」。国連総会の場でスピーチをするなら何を訴えるかというテーマで力強く発表し、全国大会への切符を手に入れました。また、仙台ユネスコ協会会長賞には、仙台白百合学園高等学校3年の小玉眞碧（まお）さんの「多様性の落とし穴」が選出されました。

令和7年度 第60回

国際理解に関する弁論

第72回 国際理解・国際協力の

高校生の主張コンクール



【仙台ユネスコ協会会長賞】
仙台白百合学園高等学校
3年 小玉眞碧（まお）さん

国連に「15歳連合」という若者の声を届ける組織を創設するという提案で聴衆を魅了しました。両名とも各高校代表にふさわしい説得力のある発表で、原稿に頼らず堂々とスピーチする姿に審査員からも驚きの声があがりました。さらに、参加した15名全員が真摯に弁論に取り組む姿勢に、会場からは感動の声が多く寄せられました。

（企画・広報委員会/理事 畠山明 記）

SALON国際交流講座 「着物着付け体験講座」開催

毎年人気の留学生対象講座。今回も35名の東北大と仙台大の留学生が参加しました。青年部と日本人学生も着物を着て交流し、一緒に定禅寺通りで街歩きを楽しみました。日本人も着る機会が少なくなっている着物ですが、留学生に体験いただくことを通して、魅力を再発見しています。着付けは、NPO法人「いろどり・みんなのみち」の5人の講師さんに東北大学病院の着付け技能士さんも加わって手際よく進み、参加した留学生は、大満足の笑顔でした。



色とりどりの着物で皆笑顔です

留学生にとっては貴重な機会となったこの講座を通して、相互の文化を理解し、尊重し合う若者たちの輪を世界に広げていきたいと考えます。

（ESD/SDGs委員会委員長/副会長 内藤恵子 記）

これからの行事予定

- 2025年12月3日(水) 情報交換会
- 2025年12月6日(土) 青年部高校生企画「国際交流」イベント
- 2025年12月9日(火) SALON&ZOOM講座
「アイヌ文化に学ぶ」会場エル・パーク
- 2026年2月10日(火)～15日(日) 第28回子ども絵画展
- 2026年2月（期日未定）ユネスコセミナー

【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子
畠山 明 岩山 浩一
佐藤 光記 千葉 雅保

【編集後記】

ユネスコ会報479号をお届けします。6月から10月までの活動報告をまとめました。青年部の活動が「平和祈念七夕プロジェクト」や「みやぎユネスコ子どもキャンプ」など活発に繰り広げられました。また10月のユネスコカレッジでは41名が参加されとても好評でした。当会は一人ひとりが思いやりの活動をしています。皆様もお仲間に加わって、いっしょに活動しませんか。
仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子

第81回 日本ユネスコ運動全国大会in金沢

10月18日（土）石川県立音楽堂邦楽ホールにて、「『日常』能登半島の創造的復興を目指して」を大会テーマに、「子どもたちによる伝統芸能」「歌とお話コンサート」とパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、被災した能登町の数馬酒造、輪島市の田谷漆器店の方、穴水町防災士会、奥能登と都市部を繋ぐハブ会社の方、そして志賀町町長が登壇し、地域・民間・行政の視点で創造的復興への取組を聞きました。また、石川県にはユネスコスクール加盟校が77校もあると聞いて、県を揚げて活動が活発に行われていることにも驚きました。



井上あずみ&ゆーゆ
「歌とお話コンサート」

エクスカーショ「白山手取川ジオパークツアー」に参加、自然と共存した豊かな取組を垣間見ることができ、実りある研修となりました。当協会からは、5名が参加しました。来年度は11月21日(土)福岡県久留米市で開催されます。（事務局 針生真由美 記）

会員募集 あなたも参加しませんか！

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています！

団体会員（一口）年会費	20,000円
個人会員（一口）年会費	5,000円
青年部会員（一口）年会費	2,000円

※青年部：学生は無料

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	73
個人会員	123
青年部会員	25
合計	221

（10月末現在）